

百年の計は植林に在り、天山山脈の西端及葱嶺の諸山は、何れも樹木の發育に適すること上述の如し。而して木材の需用、前途益々増加すべきは言を俟たず。然るに樹木中、從來楊柳のみは、庭周、路傍、河畔等に植ゆるの風あるも、外は皆天然に放擲し、何等の手入をも爲さず、用あれば濫りに之を伐り、唯、目前の利にのみ奔りて、永遠の計を忘るゝは、愚亦極まれりと謂ふべし。宜しく平野の植樹、山間森林の増殖の必要は、獨り用材の發達を圖るのみに非らず、實に水源涵養に於ても最必要とす。

新疆人は今日に於て、舊來の姑息的習俗を排し、大に樹木を播殖せずんば、山野の森林は荒廢に歸し、年に禿山と荒野の區域のみ増加して、異時躋を嚙むも及ぶべからざるに至らん。政府も亦宜しく植林の改良發達を獎勵すべきなり。

植林事業の改良發達を圖るには、先づ學校を起し、技師を養成すると同時に、栽樹試験場を各地に設け、普く地味に適する樹木を擇び、以て大に苗木を栽培播殖せしめ、之を地方人民に分與して、所在の土地に移植し、而して其の栽培法を實地に教授するに在りとす。